

新聞御礼会

第1回観光立国教育全国大会

in 静岡



郷土を愛する心を育てる

観光立国教育

五月十日(日)三島市民文化会館にて第1回観光立国全国大会 in 静岡が開かれた。

民・官の観光関係者や教師らが参加し、子どもたちがわがまちのよさを見つげさせる、海外の人が日本のよさを伝える、日本人が日本の観光資源の豊かさを見つけめなおす教育の可能性を理解するとともに、全国への普及を目指した。教育と行政が連携して行う、日本初の開催となった。

大会会長の船山龍二(日本ツーリズム産業団体連合会会長)が「観光立国教育は時代の要請」とあいさつし開会となった。



申込者900名越え！飛び込み参加も続々と！会場は熱気に包まれた。

観光立国教育賞 2022点応募

全国39都道府県から222作品の応募があった観光立国教育賞表彰では、香川・山形・沖縄など全国各地から受賞者が出た。

香川大教育学部付属高松小・河田祥司教諭は「観光ブックで郷土・香川の勢いを創る」で観光庁長官賞を受賞した。

香川児童が作製した「観光ガイド」をポスターにして商店街の空き店舗のシヤッターに展示し、観光情報の発信と合わせて市街地の活性化にも貢献するユニークな取り組みを紹介した。

記念講演には本保芳明・観光庁長官が登壇し、「住んでよし、訪れてよしの国づくりが観光政策の基本」と国の進める、観光立国推進法の基本理念について語った。



各分野のトップによる

観光立国教育提言

提言では民間教育団体TOS S (Teacher's organization of skill sharing) 向山洋一代表、静岡文化芸術大学川勝平太学長、日本観光協会中村徹会長、日本旅行業協会金井 秋会長の4名が舞台上に立ち、それぞれの立場から観光を教育に取り入れることの重要性や方法論を述べた。

「観光立国教育は日本のためだけではない。地球社会のため。」と静岡文化芸術大学川勝平太学長。

TOS S代表向山洋一氏は、「自分が住んでいる地域の素晴らしさを知り、多くの人に知ってもらいたいと思う気持ちは教育の根幹に触れる。」と熱く語った。



会場中が沸いた！TOS S教師による観光立国模擬授業！



大会後半には、TOS S教師による観光立国模擬授業が行われた。地元静岡のシンボル富士山を扱った授業や全国各地の観光立国模擬授業に会場が沸き返った。玉川大学谷和樹准教授は「デジタルスケッチアプリを使った授業を提案。子供達がスケッチアプリを使って作成した町並みを全国に発信していく授業を行った。」

全国から届いた観光立国テキスト

観光立国教育賞受賞作品

会場ロビーでは、全国のTOS S教師が作成した観光立国テキストがずらりとならんだ。(写真右下)TOS Sでは全国1810全市町村の観光テキストを作成。700近い府県知事、市町村長より応援のメッセージをいただいた。各で作成したテキストを使い、各地で授業実践を進めている。観光立国教育賞受賞した実践の資料も公開(写真右下)。各地の特色を生かした厚い実践に足を止め、手に取って見る参加者が数多くいた。子供達が作成したYouTubeによる観光動画も好評だった。



参加者の感想

歴史的な全国大会に参加できたことに感動しています。「観光立国」は宮崎県再生の柱となるものと確信しております。今、宮崎県観光は東原知事を中心に再びの脚光をという感じでありますが、知事もおっしゃっているとおり「定着」課題です。そこに住む人々が「わが町」を誇れるにかかっています。「観光立国教育」の重要性をここにあるわけです。県内の先生方への情報をたくさん持って帰れます。スタッフの皆様ありがとうございました。(宮崎県議会議員)

わたしは観光を職業としていますが、もちろん学生時代から観光に興味を持ち、立教大学で観光の勉強をしました。しかしながら過去のどんな授業よりも今日は楽しく、興味深く学べました。私たちの後に続く優秀な人材の育成のため、是非この活動を振り下げてさらに発展させていただきたいと思っています。(会社員: JAC)

観光立国教育の大きな可能性を学ぶことができました。自分が住む地域の良さを学び発信した子ども達も、地域が好きになり、自信を持つと思います。地域の素晴らしさ、先人の功績、地域に人々のすばらしさを、ぜひ子ども達に伝えていこうと思えました。向山先生が紹介された、松下幸之助氏の55年前の観光についての話に驚きました。終戦直後に、日本の良さを、すばらしさに着目し、極めて具体的に方策を示していたことにです。日本の国力を上げるために、観光立国教育を推進していくことは、非常に重要だと理解しました。教室で子ども達に地域の良さを、日本の素晴らしさを伝えていきます。本当にありがとうございました。(小学校教員)